

令和6年度 自己評価書

令和7年3月26日
真庭市立久世第二保育園
園長 難波 明美 印

1. 久世第二保育園の教育保育目標

児童福祉法に基づき保育を必要とするすべての子どもに対し、安心・安全な生活の場を保障し、保護者と共に子どもの最善の利益を考慮した保育を行う。

保育方針

- ・子どもが自ら生き生きと活動することを通じて健全な心身の発達を図る。
- ・家庭との連携を大切に、子どもの成長を共に喜ぶ。

教育・保育目標

- 「居心地の良い環境の中で育ち合う保育」
- 生き生きとした元気な子ども
 - 自分の思いを相手に伝えられる子ども
 - 友達と共に育ち合う子ども

2. 本年度の重点目標

“子どもも保護者も職員もつながりを大切に。
心も体も元気で明るく笑顔あふれる保育園”

○本年度研究テーマ

「言葉で表現する力を育むための保育者の援助を探る」
～心が動く遊びを通して～

重点目標

- ・愛着と自己肯定感のもとで夢中になって遊び込み確かな遊びにつながる保育
- ・体を動かす様々な遊びを見つけ、挑戦し面白さ味あえる保育
- ・異年齢児交流を通して、自分も友達も大切にしながら豊かな気持ちを育む保育

3. 園評価の個別評価

評価指標	考 察	園総合評価
教育課程・指導計画	全体の計画に基づき、子ども主体の保育計画を立案し実行することができた。今後もさらに PDCA を意識して保育をすることを目指していきたい。	3
行事	昨年の反省をもとに、職員会議で話し合いをもち共通理解を深めて取り組めた。行事の日程、内容等など行事のあり方を検討していく必要性も感じる。	3
組織・運営	自分の役割に責任をもち、組織として協力し合いながら運営を進めることができた。	3
学級経営	子どもの興味や関心に沿って様々なことに触れながら、豊かな経験を重ねるための環境作りを心がけ実践できた。	4
特別支援教育	関係機関との連携を密にして、情報共有し保育に繋げることができた。発達が気になる子の保護者には今後も寄り添い丁寧な支援を心がけていきたい。	3
安全管理・保健指導	園舎の老朽化のため思わぬけが等が発生しないよう今後も徹底して安全管理に努めていきたい。園児への指導では、安全な行動を身につけ、自ら行動できるように避難訓練、交通安全指導等でのいろいろなシチュエーションで実施できた。	3
研修（資質向上）	人員不足のため予定していた研修に参加できないことがあった。個人では自己研鑽に努める意識が高くスキルアップにつながっている。	3
情報提供・保護者・地域との連携	行事や子どもの様子をホワイトボードや写真で掲示したり、保護者との会話を密にしてきた。今後はコドモンやアプリを活用しての発信に努めていきたい。地域との連携に関しては今後の大きな課題である。	3
小学校との接続・連携	年間計画に沿って協議したり、1・5年生との交流会も実施できた。ただ、就学先の4校全ての小学校と交流の機会はもてなかった。今後は交流の幅を広げていきたい。	3

子育て支援	保護者の必要に応じて面談や相談を行ってきた。 悩みや不安を知ることから始め、上からアドバイスを するのではなく、保護者に寄り添った支援ができるよ う今後も努めていきたい。	3
食育の推進（給食）	年間計画に基づき、年齢に合わせた食育指導を行うこ とができた。調理員と担任とが協力して「楽しく食べ る」工夫をすることができた。	3
食事の提供（調理）	アレルギー食提供は、調理員同士、調理員と担任が連 携を密にし、確認しあって誤食がないよう安心・安全 な給食提供に努めた。	4

4. その他必要な評価

評価指標	考 察	園総合評価
保育の資質向上	研究テーマに沿ってドキュメンテーションを重ねたこ とで、子ども理解が深まり、子どもを多面的に見ること ができるようになり、子どもも保育者も心地よい保育の 風土ができつつあることは大きな成果と感じる。	4

5. 本年度の重点目標及び総合的な評価結果の考察等

- 園の保育・教育目標、今年度のテーマに沿って職員間で共通意識のもと、心や体を動かして遊べる環境の工夫に努め、様々なことに主体的に関わりながら夢中になって遊びこめる力を育てて行くよう努めた。また、研究テーマである言葉で表現する力を育てるための保育者の援助を探っていく研修を重ねることで、保育者同士が肯定的に語り合うことができ、心地よい風土ができつつある。
- 今後も継続して取り組んでいき、保育の風土がさらに高まるよう努力していきたい。
- 保護者との関係作りにおいては、クラス懇談や相談・面談などで保護者の気持ちに寄り添いながら丁寧な対応を心がけていった。発達支援などで支援が必要な家庭との連携ではまだまだ課題が残る。
- 小学校との接続・連携においては体験入学や、交流事業、情報交換などに参加し安心して就学ができるよう一人一人の育ちの連携に努めた。園からの積極的な発信も今後の課題といえる。
- 安全管理では、アレルギー対応が必要な子どもが安心して食事ができ、誤食のないようマニュアルの見直しを含め職員全体で取り組むことができた。今後も声かけ確認を徹底していきたい。

6. 評価結果を受けての具体的改善方策等

- 保護者のアンケート結果では、園の清潔・安全面での課題が示された。老朽化により清潔・安全面が十分保たれないということが無いよう、園で対応可能なことは速やかに改善していくよう心がけたい。
- 職員の自己評価では、地域との連携の面での新たな取り組みが必要と読み取れる。地域に開かれた園作りをするためにも新たな連携の方法を模索していきたい。
- 職員の資質向上では、それぞれの職員が自己評価を通じ課題や役割分担を把握し、見直し改善に努めるようにしていきたい。そして、職員全員がそれぞれの中で保育していることを意識し、チームワーク力を高めていきたい。
- 引き続き保育ドキュメンテーションを続けていき、保育所保育指針を読み込んでいく時間を確保することで専門性の向上に努めていきたい。

園評価基準

評 価	基 準	
4	80%以上の達成度	十分達成されている
3	60%以上80%未満の達成度	概ね達成されている
2	40%以上60%未満の達成度	取り組まれているが、成果が十分でない
1	40%未満の達成度	取り組みが不十分である